

パブリック・サービス研究分科会 夏期研究合宿 グループ討議録

2006年8月22日(火)、23日(水) 文化学園軽井沢山荘

グループ (3)	進行 ・ 東家 由朗	(上智)大学
	記録 ・ 二塚 恵里	(国立音楽)大学
	発表 ・ 千家 慶子	(國學院)大学
	・	()大学
	・	()大学
	・	()大学

テーマ：コンソーシアム(, 相互協力)

- ・コンソーシアムとは？
 - ・電子ジャーナル共同購入
 - ・特定地域など、大学図書館が協力して利用者サービス
- ・コンソーシアムの必要性
 - 大学主導のコンソーシアムと図書館主導のコンソーシアムがある
 - ・参加大学の加盟しているコンソーシアム
 - ・山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム : 図書館主導
 - ・世田谷6大学コンソーシアム
 - ・横浜市内大学図書館コンソーシアム
 - ・TAC(多摩アカデミックコンソーシアム) : 大学主導
 - ・カトリック大学連盟
 - 特に、山手線、TACを中心に -
- ・メリット
 - (資料について)
 - ・TAC: 異なる専門分野の相互補完
 - ・山手線: ILLで取り寄せるより、近隣の大学に直接来館した方が楽で、業務量も減る。緊急時、即時に利用可能
雑誌は、責任分担収集
 - ・他館から何度も利用している資料は自館にも必要、など様子を見ることができる
- ・デメリット
 - ・大学間に温度差がある。特定の館のみの負担が大きくなる可能性もある
 - ・利用規則などに差がある(均一にすれば良いわけではないが...)
 - ・図書館主導の場合、図書館の外に発展していかない
- ・事務局組織の必要性
 - ・サービスのレベル維持
 - ・参加館を増やす
 - ・HPなど、統一したものを作る
 - ・人材育成
 - ・予算の問題
 - ・専任スタッフ
 - ・業者(書店など)が担う可能性もある？
- ・コンソーシアムの目的
 - ・不明確(現状)
 - ・目的によってコンソーシアムの規模、サービスの種類が異なる
考えられる可能性
 - ・離れた地域(学生が通う範囲)でのコンソーシアム : 学生の利便性
 - ・ " (全国区) " : 特定主題、地域資料、郷土資料などを利用した研究(?)
 - ・図書館員同士のインターンシップ : 人事交流
 - 私立大学図書館協会でのコンソーシアムは可能か? 紹介状なしで利用可能にしたら良いのでは?
専任スタッフがいない、幹事持ち回りの現状で事務局を置くのは難しいかも